

ま と め

第 1 回 「国際・地域・文化」と「まちそだて」

- ① 文化：集団の成員が共有している価値に則った生活様式
- ② まちそだて：当事者の自己認識を前提とする、
内面化された共通の価値に立脚した、
持続する〈まち〉の活性化の営み

↑

当事者の価値の共有が出发点

Introduction

第 2 回 マックス・ウェーバーの社会科学

- ① 法則性と個別性：自然科学と社会科学
- ② 主観と客観：価値理念を媒介にした両者の合致の可能性
- ③ 理念型：経済・価値理念・歴史

社会分析の
手法

第 3 回 リスク論 1 (ウルリヒ・ベック)

- ① リスク社会：「新しい近代への道」
- ② 再帰性：プラスを追求すればするほど、同時にマイナスが
増大するという構造的パラドックス
- ③ 個人化：社会的中間項（階級、近隣社会、家庭）の弱体化
- ④ サブ政治：「政治的なもの」の再考、新たな政治的アクター

第 4 回 リスク論 2 (ベックと、ギデンズ、ルーマンとの比較)

- ① 「リスク」概念と「危険」概念
- ② 「再帰性」：ベックとギデンズ
- ③ 「非知」：ベックとルーマン
- ④ 「信頼」：ギデンズとルーマン

現代社会
の認識

第 5 回 ジョン・アーリの社会理論 (草津 英律)

- ① 階級の衰退
- ② 脱組織
- ③ ポストモダン
- ④ サービス階級

社会の
断片化

第 6 回 「まちそだて」論の方法論の提案

- ① 中心概念：a. 自特性 (Self-reliance) b. 持続性 (Continuance)

- ② 下位概念：a. 小実業性 (Small Business)
 - b. 地域主義 (Localism) c. 非営利至上主義 (Nonprofit first)
 - d. 非匿名性 (Identifiableness)
- } 「方法論」
の提案

第7回 中間まとめ

第8回 富良野地域の事例1 「農と観光の共生」

- ① シェフと農家の Collaboration
- ② 「ゆうふれの里」：農家の主婦の挑戦
生産者と消費者の新しい関係構築の試み
- ③ 「食のトライアングル」：
農業・レストラン・客の新結合を目指して

「小実業性」
「地域主義」
「非匿名性」
「非営利至上主義」
「新しい
集団形成」

事例 ↓

「新結合 (Neue Kombination)」

第9回

富良野地域の事例2 「環境創造と観光の可能性」

- ① 生活ごみのリサイクル (再生利用)
- ② 排出された石のリユース (再利用)
- ③ 休耕地のリデュース (整備)
- ④ 「富良野自然塾」：景観の創造・自然のリデュース

第10回

富良野地域の事例3 「夢と観光」

- ① 創造的棟梁と自分探しの弟子：自己認識
 - ② 演劇人の夢：地域社会という援助者
 - ③ 夢を追う人たちと仲介者：仲介者
- } 「響感 (Antiphonal Feelings)」
自己と他者

第11回 十勝地域の事例

まちそだて「とちち」デバイス (創意・工夫) が地域を創る

- a. 十勝地域における事例① 「十勝気質と農業」
Collaboration (協働)

「小実業性」
「地域主義」
「非匿名性」
「非営利至上主義」
「新しい
集団形成」

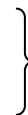
「自特性」と
「継続性」

第12回 十勝地域の事例

- b. 十勝地域における事例②
「農業から派生した観光資源としての食の創造」
- ア. Communication
- イ. Quality & Contents
- ウ. Research & Marketing

c. 十勝地域における事例③「実りの大地『十勝』を観光の資源に」

ア. 広場（祝祭空間） イ. 当事者 ウ. 喜び



第13回 長沼町の事例

「まちそだて「ながぬま」 学習観光の取り組み」

① Challenge（異議申し立て）としての取り組み：

何ゆえのファームイン活動か

② 学習要素を提供する農業：「全体性」を備えた営み

「Commitment」

「価値の共有」

「集団形成」



第14回 まとめ

第15回 試験